LUZ の熊野古道案内

2008 年　2 月　上

2 月 1 日　～　10 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００8 年　2 月

2 月　１日　熊野古道情報　横垣峠
2 月　２日　花の窟神社　春の大祭・お綱掛け神事
2 月　３日　花の窟神社　お綱掛け神事　続き
2 月　４日　花の窟神社　お綱掛け神事　更に続き
2 月　５日　花の窟神社　お綱掛け神事　終わり
2 月　６日　名物　お散歩車　ひまわり保育所
2 月　７日　月例　熊野市報　２月号
2 月　８日　紀勢線　乗って残そう…
2 月　９日　どうぞお召し上がりください
2 月１０日　奥熊野代官所
2 月１１日　建前

2008年　02月　01日

熊野の旅　熊野古道情報　横垣峠

コメントの方で質問があったのですが、熊野古道の通行止め区間のことです。

昨年の集中豪雨で南牟婁郡御浜町地内で地滑りが発生し、一部の熊野古道が通行止めになりました。

いわゆる『坂本越え』になる、『横垣峠』です。

一部については復旧工事が完成して通行可能？になりました。『通行』ではなく『立ち入り』という感じでしょうか、通行止め区間は引返してくださいと報じられていますからね。

熊野古道も世界遺産の一部を構成するところは勝手に直すことも出来ないようですね。

今流の林業用作業道みたいにしてしまうわけにも行きませんからね。

もう一つ、『道』としての需要はほぼ皆無な物ですから中々手が廻らないようです。

国道でも、３０９号線と言う、ほとんどが１６９号線と併用されるもので、地図上では熊野から京阪神への最短路のものが、崩壊で通行止めになっていたことがあります。

奈良県吉野郡上北山村から吉野郡天川村に抜ける部分です。

地図ではほんの少しの区間になる『行者還り』と言われる1000mを越す難所区間ですが、復旧まで何年も掛かりました。直す気が無いのかとさえ思われましたね。

この道路も、国道と言っても、この峠の入り口で分離される１６９号線の改修がほぼ完成していて通り抜ける車が少ない…上北山村から天川に行く用事もさほど無い…迂回路もある…それに、天川村から見るとこれを越えて熊野方面に向かうなんてことは一生に一度も無いことなので、村民からの要望も無い…

あれやこれやで国道なのに何年も通行止めでした。

『横垣峠』もそれ以上に需要と言うものが無いですから…

あるくらいなら、百年も地中に埋もれていたなんてことは無いはずですからね。

崩れた田圃の石垣や林道も復旧もままならない地方の現状では完全復旧まではまだ日にちが掛かると思われます。
『世界遺産』と言う『黄門様の印籠』をもってしても…

この写真は『横垣峠』の隣の『風伝峠』です。この季節の日の出の時間で無風の時にはこうした朝霧が紀和から越えてくるのが見られることもあります。
Tags:熊野古道 紀和町 世界遺産 by **je2luz** | 2008-02-01 10:38

2008年 02月 02日

熊野の旅　花の窟春の大祭・お綱掛け神事

雨が少し心配されたのですが、薄日のさす天気に恵まれて、無事執り行われました。
開始が１０時と言うことなので、９時半過ぎにカメラを用意して車に積み込んで出かけました。
前回もそうですが、花の窟近くの国道４２号線のパーキングに停めました。
１０分ほど前なのですが、やっぱり停められました。会場までやく100mほど、私の射程範囲です。
今回のラインナップはニコマートELにストロボ、ローライフレックス、メモ用コンパクトデジタルカメラです。
フィルムの方は毎度のようにモノクロです。これは、今日中に現像します。
参加者も前回と同じくらいで大したこと無いです。押すな押すなにはなりません。

明日にでも白黒の写真のほうはアップする予定です。
参加？参拝？の人の割りに、ビデオ・スティールのカメラマンが多い行事です。
その中も一人が私なのですが、ほとんど全員が、今様のデジイチといわれるものですね。
私より年上の人たちも『デジイチ・高倍率ズーム』です。時代ですね。
神事があり、奉納の獅子舞があり、お綱掛けがあり、餅撒きがあり、奉納の歌があり…とか、一連の行事が滞りなく行われました。

この辺では、何があっても『餅撒き』です。
この『花の窟』でも神事の最後に岩山の上から餅が撒かれます。
落差数十メートルのもちまきです。直撃を受ければ結構な衝撃かと思いますが、皆さん揃って上を向いて待っています。
ここで撒かれるのはほんの少しです。うまく拾えればさぞかしご利益があるでしょうね。

こうしてみると、こんな時の人の顔は無邪気な物ですね。
本来はライバルなのに、待っている間は何となく連帯意識があるようです。
餅が落ちてくると、本性丸出しになる人も居ます。これまた、見ていると面白いものです。
終わると再び和やかな連帯意識が戻ってくる不思議な行事です。
だから、連綿と続いてきたのでしょうね。

Tags:世界遺産 熊野市 国道４２号線　　by **je2luz** | 2008-02-02

2008 年　02 月　03 日

熊野の旅　花の窟神社　お綱掛け神事　続き

今日の記事を書くと、多少物議をかもすかもしれません。

花の窟神社の神事も他の神社の神事同様、神様にお供えをすることから始まり、お供えを下げるところまで一連の流れで行われます。
田舎の小さな神社では『巫女さん』は居ませんから、『浦安の枚』は地元の子供によって廻れます。
ここ『花の窟神社』は藁で作った『綱』を張り替えるためか、春・秋の二回、大祭が行われます。多分、同じ子に二回出番があるのかと思います。
本来の神事としての舞を舞うとしたら、今どきの大人の職業巫女さんではなく、この年齢の子供でなくてはならないのでしょうね。

ここの神社では何時から取り込んだのか、『今流』？？の獅子舞・神楽が奉納されます。

私としては、ものすごく違和感があるものです。

祭りなんてものは、色んなアイデアマンが色んなことを考え付いたり、他所の祭りを見てきてまねたりして、出し物が増えたり減ったりするものだと思います。それが、定着して十年もすれば、『恒例の…』になり、三十年もすれば、『伝統の…』になるものです。だから、新しいものが取り入れられることには問題は無いのですが…

この獅子舞は、プロ？のエンタテイナーが創作し演ずるものなのです。

アクロバットのような身のこなしで、上海雑技団的な柔らかな体を誇示する、確かに流麗で見る人の目は引くのですが…

これは伝承のしようの無い演目ですね。
そうしたものが、祭りの時の余興として小屋掛けされているのなら、全く文句も言わないし、賑やかしに大いに歓迎すべきことでしょう。
しかし、神事に割って入ってくるのには疑問を感じます。
この人たちは、私が言う所の『文化人』であり、熊野にほれ込んで熊野に移り住ん出来た人たちです。そして、熊野をテーマにした音楽や踊りを創作して発表しているのです。
それはそれで結構なことなのですが…
こうして、何処へでも入り込む位で無いと、やって行けないのも分かりますが…
『文化人』独特の神経のように思えます。
日本最古かもしれない、土着の素朴な祭りに割って入るべきかどうか、一考を要すると思うのは私だけなのでしょうか？
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2008-02-03 11:00

2008年 02月 04日

熊野の旅　花の窟神社お綱掛け神事　更に続き

お綱掛けと言われる神事はお払いを受けた地元の男衆が白装束で岩山に登る所から始まります。
天辺に立った男衆から、錘の付いた白いロープが下ろされます。
そのロープが下に届くと、その先に貼り渡す『お綱』が結び付けられ、男衆たちがそれを引き上げ、ます。
手で撚った荒縄を７本ばかり合わせた注連縄なので、1mあたりにするとさほど重いものではありませんが、がけの上まで数十メートル分引き上げるので結構な重さになります。

崩れる心配の無い大岩ですが、高所恐怖症の人ではとても勤まらない役目です。
引き上げた綱は大きな木の根元に巻きつけて固定されます。
固定完了の合図が出ると、いよいよ、参拝者参加で綱掛けが始まります。

先頭役の人に先導された『お綱』が神社の境内を出て、国道４２号線を横切って七里御浜の方に引き出されてきます。

引っ張る張力だけで、高い柱の上に引っ掛けようと言うので、綱の長さは200mほどになります。
参加者がこうしてつかめる長さも、引き上げられてしまうまでなら１００メートル以上ありますから、どっさりの参拝者が居ても自由に参加できるのです。
この綱を引く方の参加者を見ていると、圧倒的にご婦人が多いです。

そうです、女の子とかではなく、『ご婦人』、大阪で言うと『おばちゃん』が多いですね。
このおばちゃんパワーでこの綱がピント張られ、柱の上に引っ掛けるのです。
引き出した時には綱が長いので、一番先は狭くなってきている七里御浜の波打ち際近くまで届きます。

今日は写真でスペースを稼ぎました。
こんな感じで行われるのですが、綱が引っ張り出されて、柱に引っ掛けられるまで約１０分ほどでしょうか？
短い時間ですから、ちゃんと時間に来ないと見られません。
次は１０月２日午前十時からです。
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2008-02-04 10:26

2008 年 02 月 05 日

熊野の旅　花の窟神社　お綱掛け神事　終わり

200ｍもある綱の途中を、コンクリート製の柱の天辺に作った窪みに落とし込んで高さを確保する張り方をしますが、ものすごく難しそうなその作業も割合と短時間で済ませます。
綱が長いので、少しずらすのにも引っ張り手がうんと移動することになり、それが微調整がしよいことにもなっているようです。
この、綱を掛ける柱は本来境内に生えている松の大木の枝に掛けていたものです。
戦後、猛威を振るいだした『松くい虫』によって、『有馬松原』同様、神社の境内の松も次々と枯れて行き、引っ掛ける大木がなくなったので、特注のコンクリート柱

を建てたのです。

この柱ができた時には、ものすごく違和感がありました。

大体において、違和感のあるものでも長年の間には見慣れてきて景色に溶け込むものですが、この柱は全然溶け込めるものではないですね。

柱に掛けてからの綱は、後から植林されて大きくなってきている松の枝に掛けて、くくりつける場所に誘導されますが、これは竹ざおを使った洗濯竿を上げるような物での手作業です。

この綱尻をくくりつけるのも、昔は松の木の根元だったのですが、今では切り株に見立てた工作物です。

日本の神も、戦後パルプ材と一緒にアメリカから入ってきた松くい虫から松の木を守ることが出来なかったようです。
綱を預ける途中の松はそのうち代替わりの松が育てばそれを使えるでしょうが、境内の植生は雑木との混生で込み合っており、松の木の好きな環境ではありません。
いつ、松枯れが始まるやら・・・
余談ですが・・・
獅子舞に違和感を感じたのは、プロライクなアクロバットポーズだけではなく、決めポーズなどが、『神』ではなく『観客』をものすごく意識したものだったように見えたからかもしれません。
舞の向きが『神前』のそれではなく『舞台用』のものに感じたのは私だけなのでしょうかね。
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2008-02-05 10:29

2008年 02月 06日

熊野の旅　名物　お散歩車　ひまわり保育所

これは、『ひまわり保育所』のお散歩用の『乳母車』です。
大勢詰め込んで保母さんが押して散歩します。
ちゃんと歩ける子は他の保母さんに引率されてぞろぞろと歩きます。
この『ひまわり保育所』伝統の散歩風景です。

この保育所の歴史は結構古く、『電電公社』の時代、『交換手さん』の子供を預かるために、労働組合が始めた、『無認可保育所』が始まりです。
当時は、電話はダイアルではなく交換手経由なので、熊野の電電公社にもたくさん

の交換手さんが居ました。
　労働組合も労働条件闘争、政治闘争と華やかな時代でした。
　本当の意味での『労働組合』だった時代です。
　生まれてすぐの時代にはどんな組織も、試行錯誤をしながらでも、熱意がみなぎっているものです。

　電電公社は熊野市駅前にあり、市役所の斜め前でした。
　この無認可『ひまわり保育所』は、市役所の裏側の狭い土地にねじ込むように作られていました。
　電電公社が合理化され、交換が自動化されて、交換手も減ってきてからは、一般の幼児も預かってくれるようになりました。
　何と言っても、ここは労働者の作ったものです。働く人の身になって作っただけに、『０歳保育』をやってくれました。
　市立の保育所では『３歳児以上』の保育を原則としていました。
　当然のように、本当に働く人の子供は、この『ひまわり保育所』のお世話になることが多かったのです。

　今は、補助金も貰って、井戸町に引っ越していますが…
　まだ、市役所の裏にあって、窓から真下に保育所が見え、子供の叫び声や泣き声がまともに聞こえてくる状態のときの話です。
　そして、これは本当に公式の場所でのことでした。

　『熊野市の保育所の数はどれだけでしょうか？』
　『〇〇箇所です』
　『その中には、いわゆる無認可保育所と言うものは含まれているのでしょうか？』
　『熊野市には無認可保育所はありません』
　『では、この窓の下のも認可を受けているということですね？』
　『いや…あれは…』
　『無いことになっている訳ですか？』
　『そう言われれば、そういうことでして…無認可と言うことは公式には存在しない…』
　『市職員の人の子供もあずかっれ貰っているようですが…』
　『いや・・それは…』
　『認可することは出来ないんですか？』
　『面積などの条件が整っていませんので…』
　『移転の計画があるそうですが、補助などの予定は？』
　『今のところは計画しておりません』
　『そりゃあそうでしょう。存在しないとおっしゃるものに補助金は出せませんよね』
　『まあ…』
　・・・・・　こんにゃく問答のようなこともありました。
　結果は補助金を支給と言う形にはなりましたが、今でもお庭が狭く、走り回れないのと、０歳保育なのでこうして、大きな乳母車でお散歩と言うことです。

天気のよいときは結構遠くまで出かけています。
カルガモの散歩のようでほほえましいものですが、ぞろぞろ付いているのがわけの分からない子供ですから、見かけたときには十分に気をつけてやってください。

Tags:熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-02-06 11:00

2008 年　02 月　07 日

熊野の旅　月例　熊野市報　２月号

今月の熊野市報からの抜粋です。

お誕生	11		
おくやみ	30		
	１２月１１日～１月１０日		
人の動き	平成２０年１月１日現在		
人口	21.149	（－３３）	
男	9.855	（－１２）	
女	11.294	（－２１）	
世帯数	10.176	（－１４）	（　）は前月比

まあ、毎月と同じような数字が並びます。
コンスタントに年寄りが死んで、生まれる数の方が少ないので、自然減が続きます。
田舎のこうした流れは将来の日本全体の姿でもあります。
『田舎は遅れている…』などと言われますが、『老齢化』だとかに関しては、都会より数十年早く先取りして来ましたからね。

都会でも、『千里ニュータウン』などは、例の大阪万博と同じ頃に一気に作った町ですから、人口構成が偏っていたため、近年ではものすごい高齢化が進んでいるそうですね。

その直前の状態にあるのが、東京では『高島平』『多摩ニュータウン』などの巨大団地群などですね。

一つのこうした団地の人口が、紀伊半島南部の尾鷲・熊野・新宮をあわせたより多いくらいなのですから、それが高齢化したら大変ですね。

高齢化のあとは、田舎なら限界集落…廃集落・廃村なのですが、都会の近くでは、ゴーストタウンになるのでしょうね。

今は、再開発だなんだ言って居ますが、急速に人口減少する日本で、今のような土地神話とバブルが残っているのでしょうかね。

都心でも、老朽化の進む超高層ビルの解体が問題になってくるでしょうね。

エンパイヤステートビルのようほどの耐久性は無いはずですしね。

オフィス過剰になり、何も無駄なエネルギーを使って高い所に登らなくても…と、なる可能性もありますね。

『昭和』と言う時代に５割ほど増えた人口ですから、今の『平成』の次の御世で元の８０００万人に戻ってもおかしくないでしょう。東京の人口も８００万人に…

しかし…東京郊外を麦畑を戻すのは不可能でしょうね。

ただの荒地だけが残るだけ…

荒涼たる景色が広がり、さらに百年ほどすると、武蔵野の景色が戻ってくる…

熊野の山間部では、すでに、神々の里の雰囲気が戻りつつあります。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2008-02-07 10:56

2008年　02月　08日

熊野の旅　紀勢線　乗って残そう…

国鉄の最後の頃、全国で廃線になる路線が次々と指定されてゆきました。
何しろ、黒字の路線なんて、東海道線と山手線などほんの一部以外には無いのですから、赤字の線を外すとなると、日本中の鉄道が消える状態でした。
ここを走る、紀勢線も『紀勢本線』と言う呼び方もされた重要路線だったのですが、ご多聞に漏れず大赤字の路線でした。１００円稼ぐのに倍以上のコストが掛かるお荷物路線でした。
この状況は今も変わっていないはずです。
沿線の駅に居た、ものすごい数の職員がほとんど全部整理され、保線区の職員もぎりぎりまで削減しても、黒字転換するほど甘い路線ではありません。
今、この路線を走るのは、特急『ワイドビュー南紀』と各駅停車の二種類です。最早、急行だとか準急なんて者は走っていません。

廃線の話題が盛んであった頃に、『乗って残そう紀勢線』なる標語がありました。
折りしも、国道４２号線も改良され、世の中は『モータリゼイション』とやらの時代に入っていました。
大型バスも、難所の矢の川峠も荷坂峠も難なく越えるようになっていたので、料金の安い『特急バス』なるものまで走って、余計も居ない客を奪い合っていました。
こうした運動は、役所もかんで行われるので、県や国、そして国鉄などに対して、陳情を良く行っていました。
何せ、汽車で津に行き、更に名古屋に廻って陳情すると、その日のうちにうまく帰れないというほどダイヤが少ない所です。
着いた駅から向こうの役所までも不便だし…
『乗って残そう紀勢線』などと書いたバスを仕立てて出かける、漫画みたいな光景もありました。

ここへ来て、お盆と正月以外は連休でも空っぽに近い形で運行している『ワイドビュー南紀』の運行を減らされないように…という運動が始まったようです。
今月の市報にも　往復割引切符の利用を呼びかける記事が載っています。
熊野市…津　　熊野市…松阪　などが割引になって、通用期間が４日間だそうです。
熊野古道歩きには多少不便ですが、ぜひ東海旅客鉄道・紀勢線・特急『ワイドビュー南紀』でおいでください。

熊野市駅の電話が変わったとも書かれています。
普通の駅直通の電話から、どうやら、集中センターに繋ぐようです。
050-3772-3910　ＪＲ東海テレフォンセンター　だそうです。
たぶん、ローカルの話題に返事は出ないようになるのではないかと思います。
ともあれ・・・
『乗ってください　ワイドビュー　南紀』・・・ですね。

Tags:熊野市 JR 紀勢本線 モノクロ by **je2luz** | 2008-02-08 10:49

2008 年 02 月 09 日

熊野の旅　どうぞお召し上がりください

立春も過ぎ、日差しが随分強くなってきております。

熊野の名物は『高菜』『サンマ』ともに冬のものです。

他所さまでは、『サンマ』は『秋刀魚』と書くように、『秋』の魚で俳句に詠めば秋の句になります。

しかし、この地方での秋刀魚の最盛期は、初冬から春先に掛けてです。

北海道沖、三陸沖、房総沖と南下してきた群れが紀伊半島沖から高知沖にやってくるのは、新聞・テレビで『秋刀魚の水揚げ始まる！』などと言うニュースが流れてから二ヶ月も三ヶ月も後の話です。皆さんがもう秋刀魚の季節は終わったと思っている頃に『旬』を迎えます。

干物などと言うものは、塩をして天日星するので、保存食ですから、腐りにくいものです。

しかし、やたら熱い所で干すよりは、寒いくらいの時の干す方がきれいに仕上がります。

サンマの場合『丸干し』にしますから、はらわたがそのまま入っています。平気だと言っても、暖かい季節の干物はイメージ的に良くないですね。

だから…と言う訳では無いですが、『丸干し』を作る紀州には、サンマのほうで気を利かせて、初冬から厳寒期に廻ってきてくれます。
この季節なら、少々塩加減を間違えてもちゃんと丸干しに仕上がります。
今年は、このサンマが不漁でした。
獲れても、脂が残っていて丸干しにしにくいとか…
地元でどっさり獲れると、脂が少なくて生食に向かないとは言え、安いですから、スーパーでも『天樽』と言われる市場用の大きなプラスチックの桶のままで店頭に出て来ます。しかし、今年はそうした光景が見られない程度でした。
近所の魚屋さんの作業場でも仕上げにお日様の当たる場所に出してくる『サンマの丸干し』の量は少なめです。
今の時期に干し上げたものは非常においしく、きれいに仕上がります。
脂の落ちた『サンマの丸干し』は焼きすぎると硬くなります。そして、冷えると又々硬くなります。
シッポの方などは開くことも出来ず、歯さえも立たない位になるときがあります。
焼きすぎないで…ほんの少し焼き目がついたくらいのやつを熱々で…お腹の方からグイッと押すと、見事に三枚におろしたように開きます。
はらわたはお好みで取っても良し、残しても良し…
お送りできませんが、おいしそうなのをお召し上がりください。

Tags:熊野の味 モノクロ クラシックカメラ by **je2luz** | 2008-02-09 10:53 |

2008年　02月　10日

熊野の旅　奥熊野代官所

『熊野市』などとたいそれた名前を、昭和の大合併の時、わが町の先人たちがつけたので、名前の上では『熊野』の代表のような形になっていますが、元々は『熊野の端っこ』の場所です。

本来なら廃藩置県、県境界の決定の時に、新宮などと同じ県に入るべきところが、熊野川と言う区切りよいものがあったので切り離され、渡会県・三重県になってしまったのです。

ここは、紀州藩の領地です。

紀州藩も、分家して新宮藩なんてのも出来ましたが、ここは一揆まで起こして『紀州本藩』にとどまった所です。

『郡』・『町村』制度ができた時には、隣の有井村などと同じ『三重県南牟婁郡』に入っていますが、江戸時代は『木本』と『井戸』は藩が違ったものなのです。

お城のある和歌山から見ると、このあたりは地の果てですね。堺や浪速はすぐそこ、京都にも難なく行けるのに…

そんな所ですから、出先機関の代官所が置かれていました。

その名も　『奥熊野代官所』　だそうです。

近代に入ってからは、聞こえが悪いのか　『南紀』とよび、近年では『東紀州』などと呼んでいますが、公平に見ると　『奥』　なのですね。

場所は今の『天理教南紀大教会』のある場所です。天理教会が立つ前はここに『木本小学校の校舎がありました。明治になったときに町が払い下げてもらって学校を作ったものかと思われます。

その代官所の門の脇にあった松の木が十年ほど前まで残っていました。
最後は中が空洞化し、松枯れも始まって周囲に危害を及ぼしそうなために伐採しました。
写真はちょいと分かりにくいですが、その切り株です。
今は中に土を入れて花壇状態にされています。
実にぺらぺらの皮一枚で立っていたような状態だったのです。
巨木で堂々とした松で、『代官松』とか言われて木本のシンボルだった時代もあったのです。
自然の状態・野ざらしでの、それも土まで入れての保存ですから、何時までもつのかわかりません。
史跡として看板も立っていて、この後もしばらくは、ここに『奥熊野代官所』があったことが分かる状態が続くと思われます。
木本がこのあたりの中心であった証ですね。
カメラは　ローライ・オートマットX
Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　by **je2luz** | 2008-02-10 11:17

2008年　02月　11日

熊野の旅　建前

過疎で老齢化の進む熊野でもまだまだ家は少しずつ建てられます。
山間部などではほとんど建たなくなっていますが、中心部ではたまに『建前』が見られます。
今日は二軒隣で『建前』が行われています。
この『建前』の風景は随分変わりました。

まず第一に、近所の人の手伝いが無くなりました。昔は近所の人が手伝いに行き、用材の運び込みから所定の場所への持込、なれた人だと柱はもちろん屋根の組上げまでやっていました。垂木を打ちつけ、野地板を打つまで、ほとんどの所を素人集団が手を貸していたのです。
もちろん、間に合う人ばかりではなく邪魔になるような人も手伝いに来ていました。何をして良いやら分からず、うろうろする人がたくさん居るので、『建前ではなく立ち舞いだ』と言う人も居たくらいです。
葬式などと同じで、互助の作業ですから日当はありません。炊き出しのお昼と野地板を打ち上げてから、その建物に仮に敷いた床板の上での宴会が報酬でした。
こうした素人参加の『建前』はかなり前から姿を消しています。今では、大工仲間と住宅関連工事の職人などが集まり、家によっては『とび職』を雇ってやっています。
部材の持ち上げは『重機』を使います。
今のご時世、素人さんを参加させて怪我でもされたら『労災』などややこしいですし、今の男衆ではこうした現場で役に立ちませんからね。

二番目に、建物の周りの『足場』です。
昔はむき出しの状態で棟上を済ませ、棟上の終わった建物を囲むように足場を組んだものです。
『足場』は、外壁を工事したりするために組むものだったわけです。
木の足場は自立することが出来ないので、組み上げた建物にくっつけて作ったのです。
それに、人力で部材を搬入して持ち上げる時には、足場などと言うものは邪魔な物でした。
今では、高々と吊り上げた部材が空から降ってきますからね。それを足場の上の職人が受け止めて嵌めこむわけです。

この建物は小さなものです。細い道路にしか面していないし、敷地に全くの余裕が無いので、重機によって道路は封鎖されています。都会だと、ガードマンをつけないと許可は下りないし、クレームの山を築くでしょうね。
裏庭だった所にはめ込むように建てられていますが、当然のように、柱は『桧』、胴差、二階持ち、小屋物などは『杉』と言うものです。
今のように国産材が安い時でなくてもこれが当たり前だったのです。
それなのに、そんなに単価は変わらないのに、平気で外材を使う大工さんも居ます。
都会ならいざ知れず、紀州材の本場でも…
これもご時世なのでしょうね。

『建前』と言うと、『餅まき』が付き物だったのですが、今はどうなのでしょうね。
昔は、全く知らない遠くの人も集まってくるので省略しにくかったものなのです。
『ちょんな始め』(材木の加工始め)、『地鎮祭』『建前』など暦を見ないでやる私の時も、お袋がもちを用意してあったのでこの『餅撒き』はしましたね。
そのほかの日は棟梁が勝手に暦を見て決めたようです。
色んなやり方が変わっても、意外と『暦』を見ると言う縁起担ぎは今の若い人は熱心なようですね。
今日は大安だとか・・・
Tags:熊野市 by **je2luz** | 2008-02-11 11:06